



悠久の時間が流れる石の島 「小豆島」

小豆島のパワースポット「重ね岩」と「天狗岩」

香川県小豆島（土庄町・小豆島町）は、丸亀市と岡山県笠岡市の2市2町による『知ってる!?悠久の時間が流れる石の島』海を越え、日本の礎を築いた「せとうち備讃諸島」と題した「石」の物語で、令和時代の日本遺産第1号に認定されました。

道の駅「大坂城残石記念公園」の展示資料から知ることができま

400年の歴史が凝縮されているのが丁場と呼ばれる石切場です。私はその丁場の中でも、迫力のある重ね岩と天狗岩丁場に案内してもらいました。特に今にも落ちそうな「重ね岩」は、小豆島のランドマークの一つで「小瀬の大黒岩」とも呼ばれており、まさしく

で、表面に刻まれた溝と微妙な石の表情が私のあらゆる想いを受け止めてくれるかのように感じました。

人は石を動かし、石を刻み、石

古代より西日本における海上交通の大動脈であった瀬戸内海の備讃諸島。大小無数の島々が典型的な多島海を形成し、島には平地が少なく、名勝「寒霞溪」のように花崗岩の巨石がむき出しとなっています。



資料館のほか、石加工も体験できる「大坂城残石記念公園」

天空のパワースポットです。また、「岩ヶ谷の天狗岩」は巨大な花崗岩の未風化核石（コアストーン）からなる種石（17㍎×4.7㍎×10㍎）で、その周辺の残石には矢穴と黒田藩を示す刻印が残っています。これらの石を眺めていると、石が語りかけてくるよう



文・写真 黒田尚嗣

旅の文化研究所研究員、一般社団法人日本旅行作家協会会員。



頭の上に落ちてきそうな迫力がある「重ね石」

を用いて暮らしをたててきました。しかし、石は人の前に立ちだかり、人の心に恐れや悲しみも刻みました。その結果、残された石は、人の心を動かして信仰の対象にもなったのだと思います。